

# 郷土訪問の旅

東京旭川会会長 高橋 照美



恒例の郷土訪問の旅、今年は6月3日から8日まで、現地集合、現地解散で実施した。  
3日夜、スタルヒン球場で日本ハム対横浜ベイスターズのナイターを観戦。この日は一行の声援が功を奏したか、日ハムが快勝。一



塁側応援席から、遙かに雄大な大雪山連峰を眺めながらの観戦は格別であった。  
翌日は、2組に分かれて、1組はパークゴルフを体験。観光協

会のみなさんの指導で、パークゴルフは初めてという人も、大いにプレーを楽しむことができた。別のグループは、大雪窯で陶芸体験でした。  
この後、2組は合流して、折から旭川文学資料館で開催中の「石川啄木展」を見学した。

昼食は、岡田旭川副市長ご出席のもと、旭山動物園内のモグモグテラスで。郷土の食材を使つての料理は一段と美味でした。豹のモニュメントの前での記念撮影の後、野谷さんの案内で園内を見物。いつも新しい企画・展示があつて、観る人を飽きさせないところが人気の秘密でしょう。

その後、一行は市の南西にあるサンタブレゼントパーク、旧サンバレースキー場に移動。夏は休業中だが、一行のために特別に解放してくれた「ニコラス展望タワー」に上がった。海拔330mにある高さ50mのタワーからは、360度の眺望。大雪・十勝の山々に囲まれ

# 屋形船で交流

## 東京サロマ会の日帰り旅行

事務局 西沢 孝洋



東京サロマ会(足利稔会長)は、6月23日(日)の午後、会員ら65人が集まって浅草橋から屋形船に乗り、隅田川からお台場を巡る舟遊びを楽しみました。昨年まで8回続けてきた「ふるさと感動の旅」を休み、首都近郊の旅として企画したものです。

梅雨の合間の晴天に恵まれ、65人という参加数は過去2回の日帰り旅行を大きく上回りました。その内訳は会員が20人、知人・友人

で45人というふるさと旅行のときと同程度の比率です。行く先は違いますがサロマのこゝとをよく知ってもらおうという狙いどおりの集会となりました。

サロマ会の事業に初めて参加したという埼玉県の河合忠良さんは永代町の床屋さんご出身。作詞・作曲家でもあり、サロマ湖を歌ったご自身の『北国の女』を披露。歌手の大和田襄が揺れる船の梁につかまりながら熱唱

た旭川の市街を見下ろして、旭川が上川盆地の中にあることを、改めて実感した。

この後、東京旭川会設立10周年を記念して植えられた「オンコの木」を訪ねた。20数年を経て、木は大きく育ち、立派な景観を作っているのを見て、一同感激でした。

旭川駅構内に昨年建てられた石川啄木の歌碑像に對面し、夜は旭川啄木会他、市の関係の皆さんとの交流懇話会で大いに盛り上がった。



八木祐四郎記念碑

9月8日、宮前公園に建てられた「八木祐四郎記念碑」の除幕式が行われ、参列した。  
八木祐四郎は、15年の長きにわたり東京旭川会の会長を務め、日本オリンピック委員会会長として、長野冬季オリンピック、シドニーオリンピックの日本選手団団長を務めた。この日は、奇しくも、2020年東京オリンピックが決定した日でもあった。

し、拍手喝采を浴びました。(写真)

一緒に来られたお見さんの河合昌幸さんも、聞けば佐呂間町のバンドの走りのような人。あまり知られていない春日八郎の『サロマ湖の夜』を最近発掘し、CD化したとのことでした。ちなみに、サロマ湖を歌った代表は伊藤久男の『サロマ湖の歌』ですが、三田明も昭和44年の紅白歌合戦で『サロマ湖の空』を歌っています。



「北国の女」を熱唱する大和田襄さん

宴会とカラオケ合戦の舟遊びの旅も終わり、担当役員の杉谷博利さんは、次回はまた佐呂間周辺で行ったことのない所を旅したいと話していました。

### 営業種目

- 高低圧電気設備設計施工
- 音響設備設計施工
- CVCF、UPS設備設計施工
- セキュリティ設備設計施工
- 空調設備設計施工
- 衛星放送アンテナ工事
- 防災設備設計施工
- 情報記録システム工事
- 自動制御設備設計施工
- 工事付帯設備工事

## NEEC 西澤電工株式会社

取締役会長 西澤章二  
(東京中標津会・会長)

〒144-0035 東京都大田区南蒲田1-21-7  
TEL 03-3738-2181 FAX 03-3738-2180